

保育北九州

平成27年7月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話(093)661-2153番

発行人 酒井光義
編集人 日野真人

2015 180



えんそくでおべんとうたべたよ

〈提供 八幡西支部〉

(5歳児の作品)

表紙	1
就任ご挨拶	2～3
仲間たち	4～5
研修報告	6～7
雑感・編集後記	8

就任ご挨拶

(一社)北九州市保育所連盟

会長 酒井 光 義



この度、平成27年度一般社団法人北九州市保育所連盟定期総会におきまして、平沢茂会長のご退任に伴い、理事会でのご推薦と皆様のご承認をいただきまして、当連盟会長職をお受けすることとなりました。力不足の私とは思いますが、皆様のご支援ご指導、そしてご協力をいただき、精一杯努めさせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいた

します。

当連盟は、昨年より組織を一般社団法人化し、新たな歩みを始めたばかりではありますが、関係諸団体との任期の調整により、本年度新たに役員改選となつての出発となりました。今ここに、その職務を「引き継ぐ」ということの重さを、ひしひしと感じさせていただいているところです。

前任の平沢茂先生には、三期6年間、私どもの先頭にお立ちいただき、揺れ動く保育制度改革問題の最中であつて、ぶれることなく方向を見定め導いてくださいました。又、連盟50周年事業をはじめ連盟の法人化等々、当連盟における多くの節目をおまとめいただきました。語られる言葉の一つ一つが温かく包まれていたことに先生の優しさを感じてい

たことです。あらためてご苦勞様でした、ありがとうございましたと感謝の気持ちを伝えたいと存じます。

さて、当連盟会長職は一般社団法人化後、私で第2代目となります。当連盟の歴史50年を振り返りますと、それは北九州市の発祥とともにその歩みをはじめ、初代会長故西村法昭先生から数えると6代目となります。これまでの会長職の先生方を思い起こしますと、北九州の子どもたちの幸せを願う熱意そのままに、組織としての団結力を高め、地元行政と一体となつて「保育は北九州から」を合言葉に保育事業の発展を推し進めてくださったトップリーダーの方々であり、その多くは全国をも引っ張つてこられた先生方ばかりです。私が保育の道へのご縁をいただいたのは、昭和49年初代会長の西村法昭先生ご健在の頃からで、これまで務められた歴代会長方すべてのご活躍を目の前にして、それぞれに多くの感動をいただきご指導もいただきました。今日まで歩ませていただきました。それだけにその責任の重さを感じます。先代の皆様の足元には到底及ぶものではないことを十分承

知しておりますが、今ここに課せられる役目なるものを私なりに受け止め、私の持てる力の中で驕ることなく謙虚な気持ちで務めさせていただこうと思っております。

幸いにして、現在北九州の保育をリードしていただいております公益社団法人北九州市私立保育園連盟会長の橋原淳信先生、北九州市保育士会会長の北野久美先生の存在は、未熟な私にとって心強く、有難いことであります。両先生をはじめとして、顧問の方々のご指導をも仰ぎながらその職務に励みたいと存じます。重ねて他役員をはじめ会員の皆様の一層のご協力とともに、変わらぬご厚情をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。



(公社)北九州市私立保育園連盟

会長 橋 原 淳 信



五月二十五日の連盟総会役員改選において、再び会長にご推挙いただき、就任することとなりました。

私としては、平成二十五年から就任しました国の「子ども・子育て会議」の委員を退任したこと、また私ごときが栄えある叙勲の榮譽に恵まれたこと、またこの四月に妻に先立たれたことなど、公私に亘る条件が重なり退任させていたたく時期が到来したのではと考えておりました。

しかし、本年四月から新たな保育制度が実施されることとなり保育界にとって大きな転換期を迎えたこの時に…と考えるとき、今回の制度構築の委員の一人に選ばれ、未来を担う子どもたちにとってよりよい保育制度をと切望して会議に望んだこと等を思い浮かべ、もう一度頑張らさせていただき、これまでの保育人生の総括をしなければ…との思いが強くなったことも否めない事実です。

全私保連は全国を六つのブロックに分

け、それぞれから一人の代表を選任し、六人の副会長と常務理事を加えた常任理事会が毎月一回程度開催されております。その一つである九州ブロックの代表として再びその副会長に就任することとなりましただけにこれまでの集大成をとの感を深くしたことも心の中にありました。大した能力も持ち合わせていないことは自分自身がよくよく承知しておりますが、北九州市の会員の皆様の温かいお力添えがあればこそ…との思いを忘れず、精一杯与えられた任務を遂行してまいりたいと改めて心に誓っております。本市私保連も公益社団として、着実に一步一步その歩みを進めております。これまで以上に社会に信頼され、市民に貢献する団体として、更に活動を広げてまいりたいとお願いいたしております。それには会員の皆様の更なるご協力が不可欠であることは申すまでもありません。これから先達の諸先生が築き上げて下さった北九州市の保育の道を汚すことなく、行政との連携を大切にしながら時宜に即した行動をもって事に当ることを肝に銘じております。これまでより以上に会員の皆様方の御指導、御支援、御支持をお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

北九州市保育士会

会長 北 野 久 美



この度、4月23日の総会にて再任され5期目を務めることになりました。歴史的な改革とまで言われる「子ども・子育て支援制度」が施行され、現場も行政もかなりの戸惑いのある混乱期に、その役目が務まるのか自分自身の力不足に大きな不安がございます。しかし、昨年結成40周年を迎えた揺るぎない基盤を持つ北九州市保育士会会員の皆様のお支えをいただきながら、選んでいただいた期待と信頼にお応えできるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は前述のように結成40周年を節目としてこれまでの歴史を振り返り先人たちの努力と実践力、実行力、さらには先見の大切さを再認識したところです。保育所連盟、私立保育園連盟のご理解とご協力で記念行事も盛会に終えることが出来、記念誌「この10年の歩み」も完成することが出来ました。これからは各連盟と連携、連動しながら、歴史に学びつつ確実な歩みを進めたいと思っています。

さて、今年度からの5年は制度に基づいて計画された「元氣発信！子どもプラン 第2次計画」「北九州市子ども・子育て支援事業計画」に沿って様々な展開を見せる事となりますが、どんな状況においても子どもの育ちを真ん中に置いた保育内容の充実と、その傍らで育ちにより向き合う保育士等の社会的地位の向上と処遇の改善を活動の中心に置き、情報を正確に把握しながらしっかりと発言をしたいと考えています。

今年度も北九州市保育士会では「**保育の新と真**」をテーマに保育士会活動を展開いたしますが、これまでの8年の経験を活かし、新制度で決まった事と今後の展開に関しても発受信の方向性を間違えないように取り組みます。これまで以上の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



今回は若松区の新興住宅地である、北九州市学術・研究都市に新設された「ひびきの保育園」を訪ね、橘原園長にお話を伺いました。



Q 開所年月日・定員・開所時間を教えてください。また特別保育事業についても教えてください。

A 開所は平成27年4月1日。定員は70名で、開所時間は午前7時から午後7時迄です。

また特別保育事業として、延長保育・一時保育・障害児保育を行っています。

Q ひびきの保育園の保育方針についてお聞かせください。

A 保育に臨むにあたっての基本姿勢は、常に微笑みをもって子どもや家庭に対して平等な保育を行い、子どもの最善の利益を願い、保護者からの意見や要望があれば真摯に傾聴し、不明なところはわかりやすく説明をして、より良い保育の為に努力研鑽することです。また安全で快適な環境の下、温かい雰囲気の中で保護者の皆さんと共に、一人ひとりの発達過程を大切にし、生命の保持、情緒の安定を図ります。その他に、豊かな自然に触れながら、様々な行事や体験を通して豊かな感性を育て、創造する力を身につけます。また、子どもたちの健全で調和のとれた心身の発達を保障しなければなら

いと考えています。子どもにとっては、園も家庭も学びの場です。私たちと家庭が連携して、共に子どもたちの育ちを考えて工夫し、対話することで、子どもたちの健全やかな成長や発達が保障されると考えています。

Q ひびきの保育園は北九州でも屈指の新興住宅地に開園されました。以前の風景を知っている方からは想像もつかない今の状態だと思います。地域の状況はどのようなのでしょうか？

A 保育園のあるひびきの地区は、若松区の西部から八幡西区の北西部にかけて、進行形の学術研究機能を持つ創造的都市となっています。現在の状況は、平成26年12月に住宅の第8期分譲が終了し、最終的には住宅4千戸、計画人口1万2千人予定という状況で、平成29年4月には学研地区小学校新設事業として小学校建設も決定しています。ですから保育園が地域の拠点となるよう連携を図りながら共生していきたいと考えています。

Q ひびきの保育園の施設の特徴と

A して、特に大切にしていることやコンセプトなどをお聞かせください。

保育園のあるひびきの地区では、まちづくりガイドラインが発行されています。そのガイドラインは、彩りのまち 響きの自然が彩る人と人が響きあう 人と自然が響きあうというコンセプトで作成されています。シンボルとして四季の道（春の道「サクラ通り」、夏の道「ケヤキ通り」、秋の道「モミジ通り」、冬の道「ツバキ通り」）が整備されていて、自然に恵まれた環境となっています。ですから保育園の建設に当たり、外観はベーシックにし、部屋の作りにはこだわりました。園内床板の素材は天然の無垢材を使用しています。また絵本をゆくり読むことのできる、曲線を活かした小部屋を作りました。そして、シンボルツリーとして、どんぐりを植樹しました。やがて実がなり、それを使って制作ができればよいな、と考えています。また、クラスの名前はひびきの地区のコンセプトにある「自然」を意識して、実から木になつていく様子がイメージできるように、0歳児から *

* あんず * ぼぶら * かえで
 * すぎのき * くすのき * としま
 した。子どもたちが巣立ち、大人
 になった時に保育園のことを思い
 出して、実から木になっていくこ
 とを自分の育ちと重ねてくれれば
 と思います。



Q 園長先生は他園で長くお仕事されていたと伺っていますが、その時の経験が新園建設にどのように活かされていますか？

A そうですね、保育、環境、空間の使い方など、たくさんの事を学ばせていただきました。その中でク

ラス会議や所内研修の重要性も知り、新園では、開園前から職員との話し合いを十分に重ね、情報を共有して準備をしてきました。また、今までに研修等で他園を見学させていただいたことを活かして自分なりの理想を描いてきました。一つひとつ作り上げていくのは、大変でしたが、楽しみでもありました。

Q 具体的にどのようなことがありましたか？

A 例えば、子どもたちのロッカーです。保育室を広く使うことができ、保護者が保育室に入らずに準備ができるようにするため、ロッカーの廊下側も開くようにしました。また、ロッカーの上を受け入れ簿置きにしたかったこともあり、自分で「こんな感じかな？こうがいいかな？」と実際に段ボールを組んで試してみながら、頭の中で描いたことを形にしてみました。園庭にはビオトープを設置し、水を張るために手押しポンプを置きました。子どもたちに昔の文化を知ってもらいたいと思い作りましたが、「楽しいー」と、とても評判が良いです。そして、水を無

駄にせずに使うということも含めて、その水が流れます先に泥んこ遊びのできるコーナーを作ったのです。これから暑くなつて子どもたちが思いっきり遊んでくれればと思っています。

Q その他に保育に対する思いや抱負などをお聞かせください。

A 私としては、子どもの遊びや行いを「何がしたいのかな？」「何を感じているのかな？」と、じっくり観察して受容し、子どもが自己の興味や意欲を自身の力で満たすことができるように支援したいと思っています。「知らなかったことが出来る」「出来なかったことが出来る。喜びを感じる保育」です。また、園庭の芝生化を計画しています。天然のクッションである芝生の上で遊ぶことで転倒による怪我を軽減し、夏場の気温上昇を抑え、青々とした芝生で心を癒すことができれば情緒の安定につながると考えます。ひびきの保育園は、これからの若松区の保育の一翼を担い、次世代を担う子どもたちの心身ともに健やかな成長のために尽力し、地域に根ざした保育園として期待にこたえたいと考

えています。

■インタビューを終えて

橘原先生が新園開設にあたって、ハード、ソフトの両面から、保育に対する熱い思いを形にして、このひびきの地区の景観と相まって、温かみのある保育園の運営をされていることが感じ取られると共に、次世代を担う子どもたちの将来を見据えた保育魂が伝わってきました、ありがとうございました。



研修報告

スーパーバイザー研修会

五月二十六日に開かれた「スーパーバイザー研修会」に参加させて頂きました。スーパーバイザーと聞いて、身構えて参加しましたが、午前中の植田寿之先生の講義を受けて、誰でも日常的に行っている事なので難しく考えることではないと知りました。



スーパーバイジョンとは、人の成長を支援すること（人材育成）で、より働きやすいもの

に変えていくためのものだそうです。

保育園で働くことは、一重目のストレス（子どもや保護者との援助関係）と、二重目のストレス（個人的に持っているものの違い、立場の違いからくる職員同士の人間関係）があり、過度のストレスから「燃え尽き症候群」になることもあるそうです。それを防ぐには、スーパーバイジョンが必要で、スーパーバイザー（支援する人）がスーパーバイジー（支援される人）の気持ちを受け止め、自分で解決していけるように支えていく体制を整

えておくことが大切だと思いました。

三郎丸保育園

橋本久美

リーダー研修会



六月十一日（木）門司港ホテルにて、今年も多くの受講生が参加し、リーダー研修会が行われました。今回はいつも以上にバラエティーに富んでおり、北野会長の「子ども子育て支援制度について」の率直なお話や「全国保育士会主任保育士特別講座」に参加された二人の先生の論文発表など、盛り沢山の研修内容でした。特に「いつもと違う」と感じたお話は『宇宙開発と子どもたち！』と題した永大丸児童館館長の和田幸裕先生の講演でした。和田先生は『人・自然・地球』が一体となった宇宙を守り育てていきたいという思いをもっておられました。その中で、子どもたちに自然を通して物づくりの素晴らしさを知らせ、創造性のあるたくましさを感じたいという熱意を感じました。和田先生のお話のおかげで、宇宙に関心の薄い私でさえ、人や自然とつながった宇宙のことを身近に感じることができるようになりました。

今、子どもたちが自由に自然と関われる

場が少なくなってきました。だからこそ、私たち大人が意識して自然や地球・宇宙のことを考え、子どもたちにとって、明るい未来が続くよう努力していく必要があると感じました。

吉野保育所

福田理恵

全国私立保育園研究大会

第五十八回全国私立保育園研究大会（鳥取大会）平成二十七年六月十七日から十九日までの三日間行われた研究大会に参加させて頂きました。「未来を創る子どもの生活を育む」のメインテーマに「アートが開く子どもの世界、大人の生活」というサブタイトルがついた大会でした。オープニングアトラクションで因幡地方独特の麒麟獅子舞が行われ、新鮮な印象を受けました。その後、行政説明で子ども・子育て支援制度についての今後の行政の見通しを話されました。シンポジウム「アートな生活としての保育を考える、子どもを実践の始点に」のテーマに沿って子どもと保育士が対話しながら思いを共有し、作品を作り上げていくプロセスこそが大事な事と、彫刻家や子どもの造形教育の教授の講演がありました。二日目は第八分科会で「障害児保育について考える」に参加させて頂き、統合保育を行っている保育園の取り組みや



悩みなどの発表で統合保育の難しさを感じると共に、取り組む事の意義や問題点について話を伺う事が出来、同じ統合保育を行う保育士として大変参考になりました。これからの保育の励みとなりました。

春の町保育園

西山かおり

寄付

（二社）北九州市保育所連盟

（公社）北九州市私立保育園連盟

北九州市保育士会 へご寄付

キンダーポート保育園 園長 林

田猛利様よりご母堂様のご逝去に伴い、保育事業発展のため多額のご芳志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げます。

（二社）北九州市保育所連盟

（公社）北九州市私立保育園連盟

北九州市保育士会 へご寄付

（公社）北九州市私立保育園連盟 橘原淳信会長より ご令室様のご逝去に伴い、保育事業発展のため多額のご芳志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げます。

支 部 近 況

第6回

小倉南区篇



空の玄関口北九州空港を擁し、北九州市の中でも比較的緑が多く5月ともなればホテルも飛び交い国定公園平尾台もある小倉南区は、現在公私合わせて、絆の深い37の保育園（所）で構成されています。藤井英和支部長と山崎啓子保育士会長のもと、支部と保育士会の抜群のチームワークと保育への情熱をもって様々な活動・研修に取り組んでいる元気な南支部を紹介します。

先ず、恒例となっている日帰りのレクレーション。春に行うことが多く春レクとも呼ばれる支部の行事は、総勢300名を超える参加者が貸切バスでハウステンボスや湯布院等、観光を兼ねて親睦を深めています。ちなみに27年度は夏レクに衣替え、『工場萌え北九州ナイトクルーズ』で我が北九州市を海から眺めよう：とオシャレに決める予定です。

また、恒例の『保育まつり』は、地域の保護者に向けたメッセージ『子育ては心楽しくとも育ち』を合い言葉にサンリブシティ小倉で開催しています。ここでも支部と保育士会の協力はバッチリです。保育士達が行うステージコーナー（手遊び・うた遊び・ダンスやシアター等）、作って遊ぼう

コーナー（折り紙・制作・アートボールン）、おはなし大好きコーナー（大型絵本・絵本・紙芝居）は大盛況で、楽しい、笑顔であふれています。しかし、一番の心配は「混雑のためのアクシデ



ントや事故：」どのコーナーも何度もシミュレーションを重ね検討をして臨みますが、何といっても優しく警護する支部の園長先生方の姿を頼もしく感じています。

さて、南支部を紹介するには、南区保育士会を紹介しなければ：ということとで、保育士会の研究・研修会について紹介します。南区の研究・研修は北野一恵先生からの長い歴史があり、長年に亘って実践に学ぼうと実践研究を大切に積み上げてきました。昨年までの研究テーマは保育におけることばで、媒介としてのことばを通して、子どもの心情等を知るためにエピソードをとっていく：という4年間の取り組みでした。毎年保育士会の総会で資料としてまとめ、時には成果を冊子にして、

それぞれの園で活かせるように配布しています。また、保育技術や知識の向上を目指した単発研修もレパートリー豊かに行っています。昨年は、

『不審者から身を守る』『機械運動の正しい補助の仕方』パワーアップ研修として、福尾野歩氏によるうたって・あそぼう・のぼさんと・は、保育が終わった夜の研修にもか



より実施したものです。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

その他にも、器楽研修とともに今年で第38回を迎える『幼児音楽祭』に向けて、子どもたちと音楽の素晴らしさを共有するため、メンバーは研鑽を続けています。まだまだお伝え

したいことが満載ですが、紙面の都合上ここで終わらせていただきます。

今後も小倉南支部は、元気に笑顔一杯、思いっきり楽しみながら活動していきます。





えんそくにいて ぽにーをみたよ

(5歳児の作品)

雑感 心に残った言葉

保育士として働きはじめて40年以上になりました。市役所に入庁した当時の、最初の1週間の長かったこと。とりあえず無事にその週を乗り越えてほったことが思い出されます。はじめて保育室で子どもたちと向き合った時、事の重大さを感じたことは今でも忘れられません。未熟な私が、この保育室をまかされていいのか。子ども達の命を数時間とはいえ、まかされていいのか、と思うと身震いする思いでした。それが、今では、園長として保育園をまかされる立場になりました。毎年4月には、未だに、こんな私でいいのかという自信のなさを表には出さないように気をつけながら、頑張ろうと1年をスタートしています。子ども達は、よくけんかをします。けんかも成長の過程と思いますが、ほどほどで仲裁に入ります。その時に「お口でいってね。」「言葉で言ってね。」と伝えるのは、今も以前の保育士も変わっていないと思います。しかし、私には苦い経験があります。同じように子どもけんかの仲裁をして、その子の保護者にお伝えした時に、「先生は、言

葉で言いなさいと言うけれど、言葉の暴力の方が、叩く事よりひどく傷つけること あるんよね」と言われました。その当時は、差別や人権について興味を持っていた時期だっただけに、返す言葉もありませんでした。その保護者の方は、生きてきた間に色々ご苦労があったのでしょうか。その日から「言葉の暴力」と言う言葉は、私にとっての課題となりました。以来子ども達には、具体的にどのような伝えたら相手に真意が伝わるのか一緒に考えるようにしてきました。たった一言が相手に強い影響を与えてしまうことはあります。言葉は人を幸せにもやる気にもさせますが、反対にひどく傷つけ命さえも絶つ力を持っています。大事に使っていきたいと思います。民間園に移行して、職員はまだまだ日々を過ごす事に精一杯です。だからこそ、一日の間で一度は、職員や子ども達と声をあげて笑う日々を過ごしたいと思っています。

はつねはいくえん

石井美鈴

編集後記 — 知識と情報 —

教育社会学の専門家である京都大学名誉教授竹内洋さんの記事が讀賣新聞6月9日朝刊に掲載されていた。そこには「スマホ世代は知識ではなく情報を求める」と書かれてあった。知識とは、情報に対して前提から疑ってかかり、批判精神を内包した合理精神を持ってはじめて得ることのできる信念である、とその記事から理解した。保育新制度が始まりあわただしい毎日である。刻々と変化する制度内容を理解できず右往左往する自分がある。そんな中で少しでも最新の情報を得ようともしていた。だが、今回の記事で「ちょっと待てよ」とようやく自分を省みることが出来たように思う。ただやみくもに情報を求めるのではなく、保育とは何か、を今一度根底から考えてみるべき時期なのかも知れない。その上で、納得して歩み始めたいとも思う。大きな変化の時代にあればこそ、足下を見つめた小さな一歩を大事にしたい。

「保育北九州」編集長 日野真人